

越前町議会・令和8年3月定例会一般質問【斎藤 諒太議員】

(令和8年3月5日 午後2時19分 開始)

○2番(斎藤諒太君) それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきたいと思っております。

私からは、越前町の情報発信について質問させていただきたいと思っております。

昨年の夏、全国的に幅広い世代から人気のある某音楽グループが町内でミュージックビデオの撮影をしていたことで、撮影時に県内外から人が訪れるといった出来事がありました。まだまだ記憶に新しいと言われる方もいらっしゃると思っております。

過去にも町内で映画の撮影、もしくはテレビ番組の撮影といったようなことが行われたこともあるかと思っておりますが、こういった場合、町としてはどういった対応を取るようになるのでしょうか。

○議長(藤野菊信君) 総務理事。

○総務理事(山口隆司君) それでは、斎藤議員のご質問にお答えをいたします。

昨年、某音楽グループが町内でミュージックビデオを撮影した際には、制作会社から町に対して事前連絡はあったものの、あまり大ごとにしたくないということで、グループ名や撮影日時等の詳細についてのお話はございませんでした。町としましては、撮影地であるバス停が下河原区の管理するものであったことから、制作会社に対し、区長を紹介させていただきました。

令和5年に公開された映画「おしよりん」については、福井の眼鏡産業の黎明期を描いた作品で、撮影場所が町内の旧萩野小学校笈松分校舎をはじめ、県下17市町であったこと、また県が北陸新幹線のPR活動に映画を活用する計画であったことなどから、町でも負担金を拠出し、交通整理、駐車場整理への職員の派遣やボランティアの募集などの協力をいたしました。

テレビ番組につきましては、観光連盟など、取材対象者に直接撮影依頼があるようで、町に対しての依頼はほとんどないのが現状です。

現在、撮影依頼等に対して、具体的な決まりやマニュアルはございませんが、町に対して依頼があった場合、それが適切なものであると判断されるのであれば、できる範囲でご協力をさせていただきたいと考えております。以上です。

○議長(藤野菊信君) 斎藤諒太君。

○2番(斎藤諒太君) ありがとうございます。某音楽グループ関連の話に戻らせていただきますが、その後、撮影地となったバス停では、お盆期間も重なったこともあり、毎日のように人が訪れ、周辺に車を止めるような場所がないことから、路上駐車等で周辺の交通に支障を来すというようなことがあったそうです。

そのときにご尽力されたのが先ほどの答弁にもありましたバス停を管理する地区の区長さんだそうで、自作の貼り紙などで交通整理を行ったり、またはご自身が実際に現地に立ち、来られた方々に声かけをしていたということをお聞きしています。

このように、今回の場合は地域住民の方が率先して地域の盛り上がりを損なわないよう行動されていた中で、もし今後こういうことがあった場合、町としても何かしらの対応ができる可能性はないのでしょうか。

○議長(藤野菊信君) 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） 例えば、路上駐車がひどく交通の安全確保ができないなど、地域住民の生活に支障を来すようなことがあるのであれば、町にご相談をいただきたいと思います。町としましては、関係機関と協議を図りながら適切に対応してまいります。以上です。

○議長（藤野菊信君） 斎藤諒太君。

○2番（斎藤諒太君） ありがとうございます。ここからは少し余談にはなるのですが、なぜあのバス停が撮影地として選ばれたのかという話を聞いていまして、ご存じの方もいらっしゃると思うんですけども、現地のバス停は箱型で、確かにどこにでもあるかといわれるとそうではない気はします。特に都会ではあまり見ない形なのかなと思うわけなんですけど、ただ、町内で見ると実はそれなりに箱型のバス停は見かけるんですね。じゃ、何が特別だったかというところ、撮影地となったバス停は、全面に窓がついているので、正面から見たときに、奥の風景が吹き抜けて見えるそうです。その窓越しに吹き抜けて見える山や田んぼの緑を含めてトータルでほかにはない素敵な景色だということで、撮影地を選ぶ方のおめがねにかなったそうです。

要するに、地元の方々にすると何の変哲もないただのバス停で昔からある当たり前の景色ですが、見る人によっては、その景色に魅力を感じてもらえる。だとすると越前町内にはもっともっと同じような魅力を秘めた場所はたくさんあると思います。そういった場所を再発見、再認識しアピールしていけるのではないかと今回の件で感じました。

それともう一つあるんですけども、これは私も知らなかったことなんですけれども、当時、下河原口というバス停を設けている路線バス事業者では、バス停の看板を模したキーホルダーを販売したり、撮影地を巡るバスツアーも計画されていたとお話をお聞きしました。このように行動を起こしている事業者の方々もいらっしゃいますので、ぜひ町も協力して町を盛り上げていけるといいなと感じております。

少し話がそれてしまったので、質問のほうに戻らせていただきます。

これまでの質問でお伝えしているとおり、著名人、有名人の持つ発信力をもってすれば、越前町のような町の小さなバス停にまで人を集めることができる。こういったことから、やはり発信する力というのは非常に重要なものであると私は考えています。

ここで次の質問なんですけど、では実際に越前町の発信する力はどうなっているのだろうかということで、町の情報を発信するツールとしてどういったものをお考えしているか教えてください。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それではお答えをいたします。

本町の情報発信については、町内の町民にお伝えする情報発信と町外に向けての情報発信があります。町民にお伝えする情報としては、生命や財産を守るための災害、防災関連の情報や町の主要な施策や制度、各種申請や手続の方法、イベント情報などがあります。情報発信のツールとしては、防災行政無線や広報紙、越前町暮らしの便利帳などの冊子も活用しております。またホームページ、お知らせメール、LINE、子育て支援アプリ、ユーチューブなど、インターネットによる情報発信のほか、こしの都ネットワークによるケーブルテレビや新聞などのメディアも活用しております。

一方で、町外に向けて発信する情報としては、特産品や自然、歴史など、町の魅

力のPRや移住・定住、U I Jターンに関する情報などがあり、情報発信のツールとしてはインターネットによる広報はもちろんのこと、オンラインによる移住相談窓口の設置、ふるさと納税者へのメールマガジンの発信、東京、名古屋、大阪の福井県人会員の希望者への広報紙の郵送、移住関係フェアの参加や出向宣伝などがございます。また、移住体験施設なども町の魅力が発信できるツールの一つであると考えております。以上です。

○議長（藤野菊信君） 斎藤諒太君。

○2番（斎藤諒太君） ありがとうございます。では次に、今ご答弁いただいたそれぞれの利用者数、または登録者数等、数字で分かるものがあれば教えてください。また、それらの数値の目標等の設定があれば併せてお答え願います。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） お答えをいたします。

町内向けの情報発信ツールでは、防災行政無線や広報紙、越前町暮らしの便利帳は、町内全戸への設置、配布となっております。ホームページへのアクセス数については、令和6年度実績で1日平均495件です。また、2026年2月時点でお知らせメールの登録者数は426人、公式LINEの登録者数は2,585人、子育て支援アプリの登録者数は741人、ユーチューブの登録者数は541人となっております。

町外向けの情報発信ツールでは、インスタグラムでのふるさと納税アカウントのフォロワーが4,238人、若者移住促進プロジェクト「ココクルー」アカウントのフォロワーが936人となっております。また、ふるさと納税のメールマガジンの配信人数が5,490人、県外の県人会への広報紙郵送が23件となっております。

さらに、令和6年度の実績で、移住関係フェアへの参加が5回、出向宣伝が5回となっており、移住体験施設については、22名の利用がございました。

数値の目標についてですが、公式LINE登録者数については、総合振興計画において、2030年までに3,000人とする目標を設定しております。今後は必要に応じて適切な項目や数値などについての目標設定を検討してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 斎藤諒太君。

○2番（斎藤諒太君） ありがとうございます。今、上げていた情報発信のためのツールについて、現状を把握して私自身が感じることで、または周囲の方々からの声としてよく聞かれることにはなりますが、まず越前町のホームページに関して、ホームページへのアクセス数が1日平均495件という数字が多いのか少ないのかに関しては、なかなか判断しにくい項目だと思いますので、言及は避けさせていただきますが、私自身もホームページを利用して感じたことがあることでお伝えしますと、まず自分の欲しい情報がどこにあるのかがちょっと分かりにくい。そして自分の欲しい情報までにたどり着くまでにやや手数を要するといったようなイメージがあります。使い勝手といったところで、やや難があるといったところでしょうか。

または、近隣市町ホームページを拝見しますとホームページのトップに各自治体の地元の町並みや風景の写真が大きく配置され、見た瞬間に興味を引かれるような工夫がされているのかなと素人ながらに感じました。比較をするわけではありませんが、越前町でもまだまだホームページの質の向上は望めるのではないかと思っています。

また、SNSに関しては、先ほど町内向けの情報発信ツールとして挙げられていた公式LINEがあると思います。公式LINEは近隣市町でも運用されているところもありますが、これも例えばのお話になるんですけども、お隣の鯖江市では、友達登録者数が先月2月17日時点で5万5,279アカウントと鯖江市の人口に対する割合として計算すると8割程度の方が登録しているという計算です。自治体としての規模が違うので単純に比較してしまうのも違うかと思いますが、越前町ももっと利用者数を増やしたいところではあるかなと感じています。

そのためには、現状の公式LINE、町から利用者への単一方向の情報発信だけではなくて、町民からの質問だったり、意見、情報提供ができるいわゆる双方向性の利用ができるようにし、使い勝手を向上させるのも手段の一つではないかと考えています。

最後にはなるんですけども、今お伝えしたように、最近では情報発信のツールとしてSNSを利用している自治体も少なくないと思いますが、現在越前町ではX、旧ツイッターやインスタグラムといったSNSの活用が進んでいないように感じます。今後そういったSNSの運用をしていくような考えはありますでしょうか。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、斎藤議員のご質問にお答えします。

議員ご指摘のように、まずホームページにつきましては、必要な情報の探しやすさや町の魅力の伝え方についてさらに工夫していく余地があると考えております。行政の情報発信においては、必要な情報を分かりやすく届けることが大切であると認識しております。

また、SNSにつきましては、単なる情報発信の手段にとどまらず、住民との意思疎通や住民ニーズの把握、行政サービスの向上にもつながる有効な手段であるとと考えております。

一方で、SNSは即時性や拡散力に優れる反面、誤情報への対応や表現上の配慮、また情報を受け取る環境に差があることへの配慮も欠かせません。現在、本町の公式SNSとしては、LINEやユーチューブがあり、ふるさと納税担当課や若者移住促進プロジェクトでは、インスタグラムを活用して情報を発信しております。

しかし、Xやフェイスブックなどは活用しておらず、また、それぞれの部署ごとの運用にとどまり全庁的な取組に至っていないのが現状でございます。このため、本町では今後SNSの運用を含めた町の情報発信について体制整備を進めてまいります。

あわせて、広報紙やホームページの見直しも含め、越前町としてどのような形で情報発信を行うことが効果的であるのか、またどのようにSNSを活用していくことが望ましいのか、さらに検討を進めてまいります。今後は、町民の皆様に必要な情報をしっかり届けるとともに、町外の方々にも越前町の魅力が伝わるよう、分かりやすく、届きやすい情報発信に努めてまいります。

○議長（藤野菊信君） 斎藤諒太君。

○2番（斎藤諒太君） ありがとうございます。町長も議員時代に発信力についてということで一般質問をされていらっしゃるし、思い入れの強い分野なのではと勝手ながら思っておりますので、今後の越前町の発信力の強化には期待させていただく一方で、こういった、先ほど町長もちよっとおっしゃいましたが、SNSだったりの話をすると、利用していない、できない、全く分からないといったよう

に、どうしても取り残されてしまう方々が出てきてしまうのも事実だと思いますので、そういった方々の声にもしっかり耳を傾けていただきながら、進めていただきたいと思っております。

せっかく休憩挟んでいただいたんですけども、すぐ終わってしまいましたので、すぐ終わり過ぎだという苦情はお受けいたしますので、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(午後2時40分 終了)